

ウエルハーネスだより



169号

理事長からの言葉

雨の日が多く、梅雨らしい日々が続いています。紫陽花がひととき美しく咲いています。例年よりきれいに見えるのは、私だけでしょうか。今年の冬は暖冬で、雪が少なく、水不足が心配されていました。今の所水不足という声も聞こえないので、大丈夫なのでしょうね。ただし、これから梅雨の終わりの集中豪雨が心配です。もしかしたら、コロナ対策をした避難所が開設されるかもしれません。でも密を避けたら、避難所はいくつあっても足りないと思うのですが。

さて、県を越えての移動も解禁になり、いろいろなことが日常に戻ろうとしています。無観客で始まったプロ野球、正直言ってあんなに選手が声を出していたり、ピッチャーの球がミットに投げる音が響いているとは、今までわかりませんでした。そのプロ野球も、このままいくと7月10日から観客を入れるということになりそうです。どうやら、いろいろな制限を外してみても、その結果が出るのが7月10日頃ということらしいです。現状、感染者が増えていますが、制限を緩めたにも関わらずこの程度の感染者なら、日常生活には問題ないということになりそうです。上手く感染症と共存する生活をしていくということになるのでしょうか。おそらく、これからは世界各地で何が何でも隔離という政策はとられないのではないのでしょうか。続けるのは一部の社会主義国、中国やベトナムくらいになるのでは。日本の人権を制限せず、ここまで新型コロナウイルスを封じ込めたというのは世界の一つのモデルになるのではと思っています。とはいっても、現政権というより、公衆衛生や医療関係者、実務にあたった行政関係の方々の努力の賜物と思っています。

そんな中、気になる話題があります。それは「共同通信」が1600人の社員を300人削減し1300人にすると発表したことです。共同通信といってもピンと来ないかもしれませんが、日本全国や世界各地に取材網を持たない主に地方の新聞社やテレ

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL: 048-782-0575
FAX: 048-782-0590
令和2年6月25日発行

ビ局等が、日本全国・世界各地の共同通信の記者が発信する記事をもたらすという会社です。全国紙・東京のキー局も共同通信の記事配信に加盟しています。そういった各マスコミからの分担金で成り立っている会社です。イギリスのロイターやアメリカのAP・UPI、ロシアのタス、中国の新華社などが有名ですが、共同通信も日本を代表する通信社としてそれらの会社と肩を並べています。マスコミ志望者のあこがれの会社です。

では、なぜ超名門の共同通信が社員を削減するのかということ、ここ数年赤字が続いていて、それが回復する見込みがないということ大きな原因です。なぜ赤字なのかということ、共同通信の分担金は新聞各社の発行部数に比例するそうです。その新聞各社、特に地方紙の発行部数が大きく減り続けていて、今後増える見込みがなく、社員を削減するしか無いということまで追い込まれたそうです。2007年に完成したホテルなみの研修センターもすでに売却したそうです。国民の新聞離れは続き、全国紙も厳しい状況だそうです。すでに毎日が200人、産経が180人削減しているそうです。テレビ離れも始まっているので、いずれはテレビ局も人員削減が始まるのでしょうか。先月も書きましたが、世の中既存の新聞・テレビといったネットワークから、SNS等インターネットへと大きく変化していつていきます。ニュースもインターネットで見るといえるようになってきています。コロナウイルスとの共存も含めて、今社会が大きく変わろうとしているのでしょうか。

5～6月の行事

特養では、ユニット毎に誕生日会を行いました。手作り魚釣りやフラワーアレンジメントを行うユニットもありました。

デイでは、パターゴルフやゲームを行いました。また、一輪挿し作りやポケットティッシュ入れ作りなども行いました。

6～7月の予定

特養では、調理レクや誕生日会などをユニット毎に計画しています。

デイでは、七夕飾りや風鈴作りを行います。また、花火のアート工作も行う予定です。





特養 誕生日会



デイ
ポケットティッシュ入れ

特養
フラワーアレンジメント



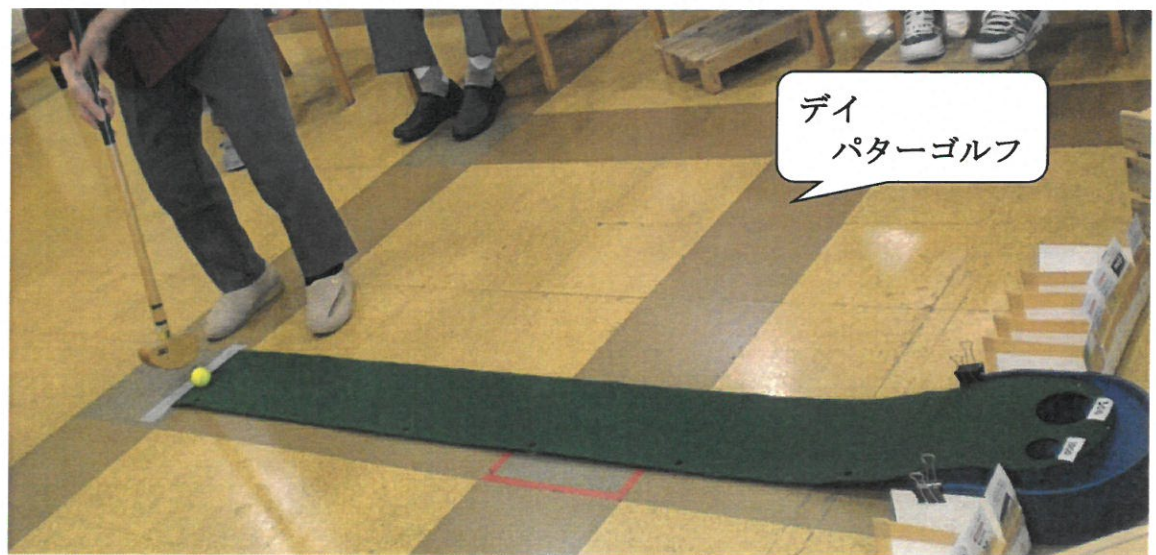
デイ
一輪挿し作り



特養
魚釣りゲーム



マスクを2万枚・消毒液300ℓを確保してありますので、ご安心下さい。



デイ
パターゴルフ

